

「やってみよう」からはじめてみよう

目次

はじめに	… 3
男山やってみよう会議での実践	… 4
「やってみようをやってみて」	… 28
チーム紹介	… 34
年表	… 40
おわりに	… 42

はじめに / 辻村修太郎 「男山地域再生」という言葉を耳にした時、あなたは一体どんな事を思い浮かべるでしょうか？「昔に比べて外で遊ぶ子どもの姿を見かけなくなったわね。」「再生？それじゃ今の男山が死んでるような言い方やないか。」「最近引っ越してきたばかりなので、私は何とも思わないわ。」これらは男山にお住まいの方から実際に私が聞いた返答です。男山がまちびらきしたのは1972年。この時代、都市には大量の住宅が必要で、あらゆる物事を単純化 / 効率化 / 規格化し、スピードを上げてつくらなければいけない時代でした。多様な価値観にいちいち耳を傾けている暇はなかったのでしょうか。そして今、その頃にできた物事と私たちの暮らしとの間に、「なんとなくのズレ」がうまれているような気がしています。では「男山地域再生」には、一体誰が取り組むのでしょうか？市民？行政？この状況を助けてくれるスーパーマンが現れる？この「問い」にも多様な「答え」がありそうです。2015年3月「男山地域再生」をテーマに「男山やってみよう会議」というプラットフォームを立ち上げました。その全貌については、本書を読み進める中でだんだんと掴めるよう、時系列に沿ってまとめています。私自身も、「やっているうちに発見する」そんな感覚をもって恐る恐る取り組んでいたように思います。



まちびらきから 40 年が経過した地域の課題

まちびらきから 40 年余りが経過した男山地域。生い茂る木々や落ち着いた雰囲気のみち並みからは、成熟した住宅地の雰囲気漂います。一方で、表面上では捉えきれない地域の課題も多くあります。住民の高齢化、若者の流出、建物の老朽化、コミュニティの希薄化、、、多様かつ複合的に絡み合った課題を前に、誰が、何から、手をつければいいのか？その糸口さえつかめていない現状がありました。



●京都府八幡市男山地域

人口：20,995人（H27国勢調査）

対象となる地区：

男山雄徳、男山笹谷、男山八望、男山石城、男山弓岡、
男山竹園、男山香呂（男山団地）
男山指月、男山美桜、男山吉井、男山松里、男山長沢、
男山泉、男山石城、男山金振（分譲宅地）

地域特性：

5階建て階段室型集合住宅団地が100棟以上建ち並ぶ。
団地中央には、歩車分離された緑道が南北約2Kmに渡り
続いている。分譲宅地は、集合住宅団地の周辺に位
置し、近隣センターは、北、中央、南の3カ所にある。

「ひと」の想いが重なる場を目指して

「この地域をなんとかしたい」そんな「ひと」の想いが重なる場はつくりえないだろうか？

市全体の約1/3の人口であるこの地域のポテンシャルを活かし、地域課題の解決や新たな価値の創出を目指すプラットフォームをつくる。

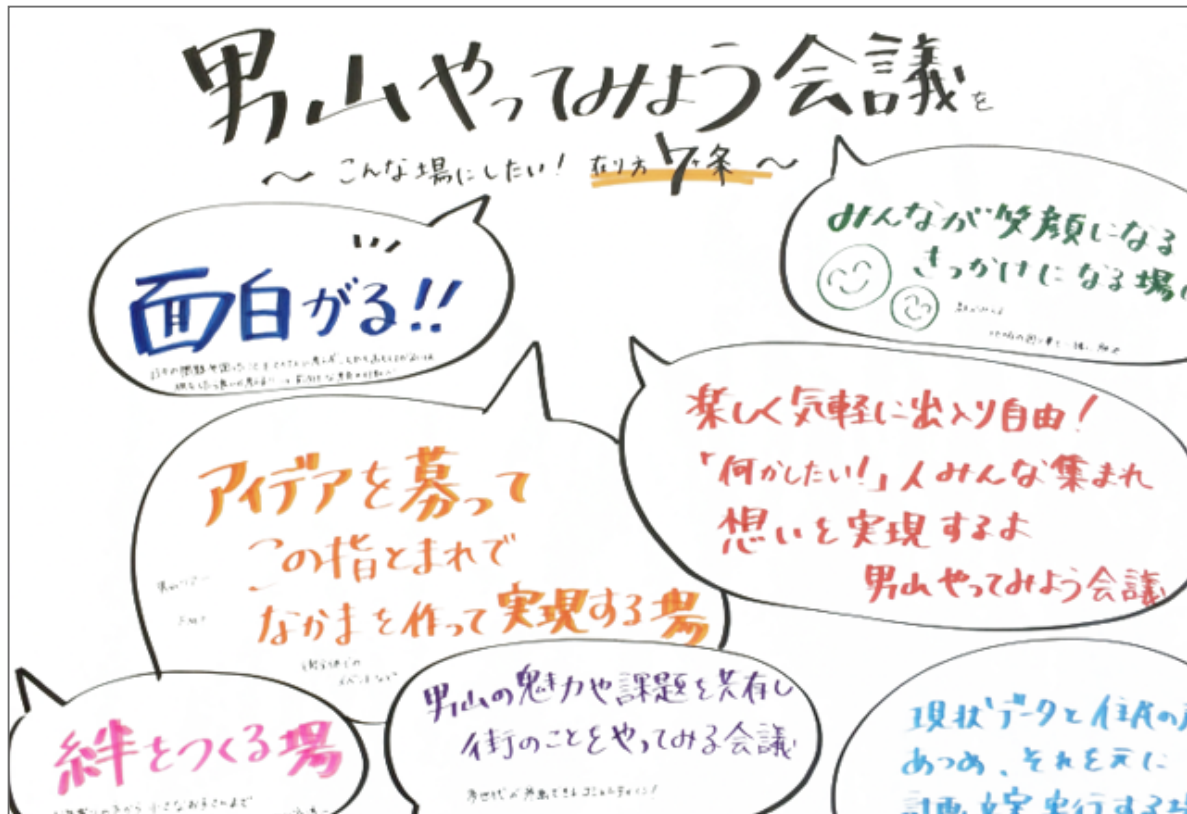
そんな想いから「男山やってみよう会議」は立ち上がりました。



はじめて顔合わせをした日 36名のメンバーで動き出す

第1回目となる会議には、公募による総勢36名のメンバーが集まりました。20代～70代の様々な世代、様々な立場の人が集まる場に、はじめは少し緊張した様子のメンバーでしたが、話をしていくうちに徐々に打ち解けていきました。

まずは「この場をどんな場にしたいか」グループで話し合い、「男山やってみよう会議の在り方7ヶ条」をつくりました。



＼ やってみよう会議の7ヶ条 ＼

メンバー1人1人が当事者意識を持って、参加できるように、7つのテーブルに分かれて「会議の在り方」について話し合いました。誰かに与えられたルールではなく、参加者自らが考えて、ルールをつくり上げていきます。

- ① 面白がる!
- ② アイデアを募ってこの指とまれでなかまを作って実現する場!
- ③ みんなが笑顔になるきっかけになる場!
- ④ 楽しく気軽に出入り自由! 「何かしたい」人みんな集まれ! 想いを実現するよ!
- ⑤ 絆をつくる場!
- ⑥ 男山の魅力や地域の課題を共有し、まちのことをやってみる!
- ⑦ 現状のデータと住民の声を集め、それを元に計画、立案、実行する場!



なぜやってみようと思ったのか、「やってみよう会議」という名前がおもしろそうだったから。そんな名前をつけるくらいだから、これはかなり「本気」かなと思って。(笑)
「やってみよう」というくらいだから、とりあえず「行ってみよう」かなと思って来てみただけの話。
—— 塚本正《だんだんテラス継承・拡充チーム》



鳥のように虫のように、地域の魅力を発見する

大きな航空写真を床に広げ、鳥のように俯瞰的に地域を眺めてみます。すると、今まであまり見えなかった地域の姿が見えてきました。発見した「地域のええところ・ほっとけないところ」について、グループに分かれて話を深めました。

俯瞰的に地域を捉えること、地に足をつけて現状に目を向けること、2つの視点を行き来しながら議論が進んでいきました。

ええところ！

いろんな経験のある人が住んでいる
 子育てには環境がいい
 病院がたくさんある
 歩いて買い物に行ける
 団地は立派な観光素材
 団地内で農業ができそう
 交野神社の森
 楠葉、天王山の夜景
 お祭りがたくさんある
 公園がたくさんある
 団地の緑道は住民の交流の場になりそう
 緑が豊か
 子どもが安心して遊べる環境
 家賃が安い
 病院が近いので便利
 待機児童がゼロ
 子ども動物園、さくら公園
 桜の季節は歩いていて楽しい
 桜が綺麗
 家賃が安く、学生でも住みやすい
 緑豊かで立地も良い
 交通のアクセスが良い
 老人クラブが充実している
 団地にはレトロな暮らしがある
 実は駅前まで出なくても小さなお店はある
 若い人が住みたくくなるようなブランド力

ほっとけないところ！

男山の発信が足りていない
 共用部が汚れている
 統合された小学校の活用
 自治会に若い人が少ない
 男山団地の周辺でも人と人のつながりが希薄になってきている
 気軽に参加出来るイベントがしたい
 高齢化が進んできている
 エレベーターのない団地の4・5階が空いてきている
 地域の福祉について
 みんなで食事ができる場所があれば
 若者の地域参加があまりない
 高齢者の体力維持
 商店街が寂しくなっている
 団地内の制度があまり認知されていない（賃貸）
 防災の意識を若い世代を巻き込んで高めたい
 4小の利用
 避難所に指定されている体育館、耐震は大丈夫？
 団地全体の外観を見直したい
 道路沿いにゴミが散らかっている
 おしゃれなまちではない
 集会所を有効活用して、人が集まれる場所へ
 若い人が住みたくなるようなブランド力をつくれるのではないかな？
 男山地域を広く知ってもらおうプロモーションをしたい
 在宅であっても安心して住める地域にしたい
 早朝・夜間の保育所が必要ではないかな？
 子どものための遊び場がなくなってきているのでは？

男山地域のええところ・ほっとけないところを付箋に書き出し「見える化」する。

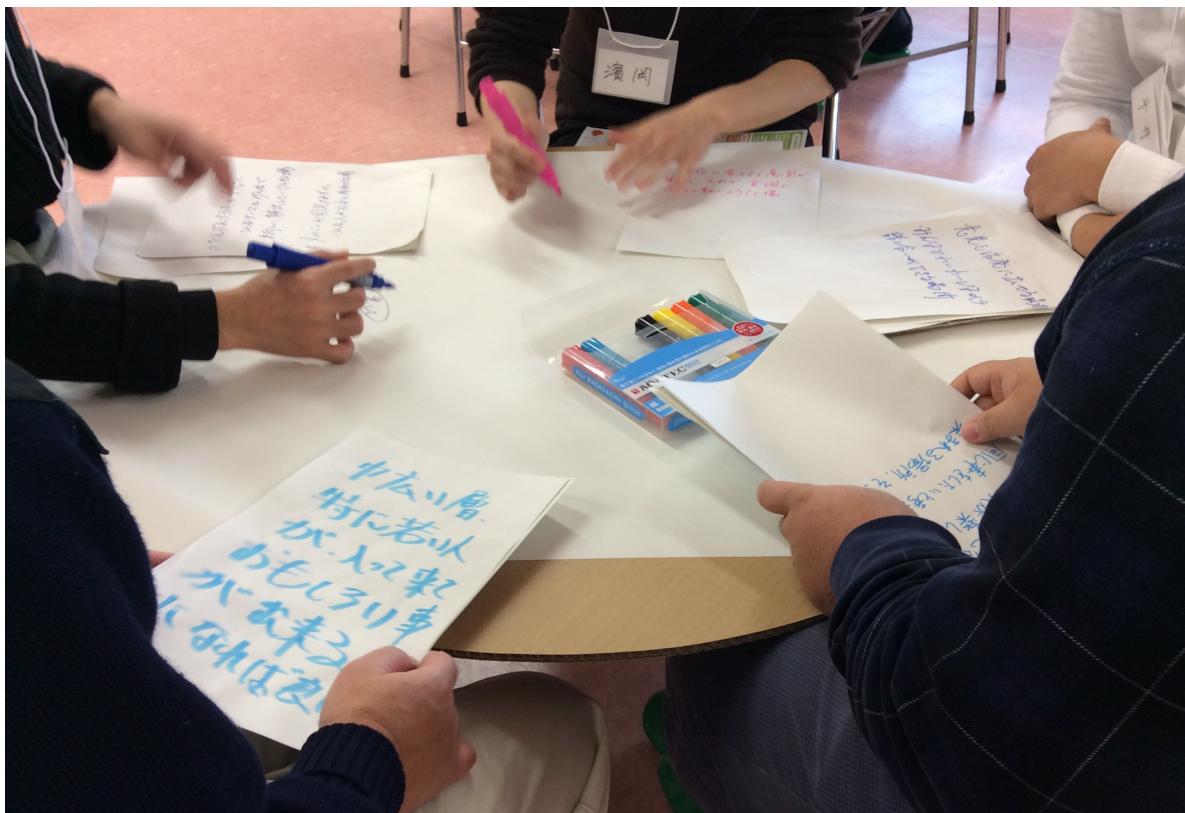


それぞれのやってみようを何度も何度も話し合う

これまでの会議では、「男山やってみよう会議」の決まり事をメンバー自らで作りだしてきました。

「うまくいかなければ手を加えていけばいい」そんな心持ちでこの場は進んでいきました。

4月に入ると、いよいよ「それぞれのやってみよう」についての話し合いがはじまりました。



わたし、
この人のこと
少し気になるカモ。



マグネットテーブル

参加者と問いを共有し、自分の取り組みたいテーマやアイデアを用紙に記入します。用紙に記入できた参加者は、その用紙を見やすいように抱えながら、部屋を歩き回ります。最初は無言で歩き回り、できるだけたくさんの人と用紙を見せ合います。しばらく時間が経過したところで、共通のテーマごとのグループに分かれて話し合いを始めます。



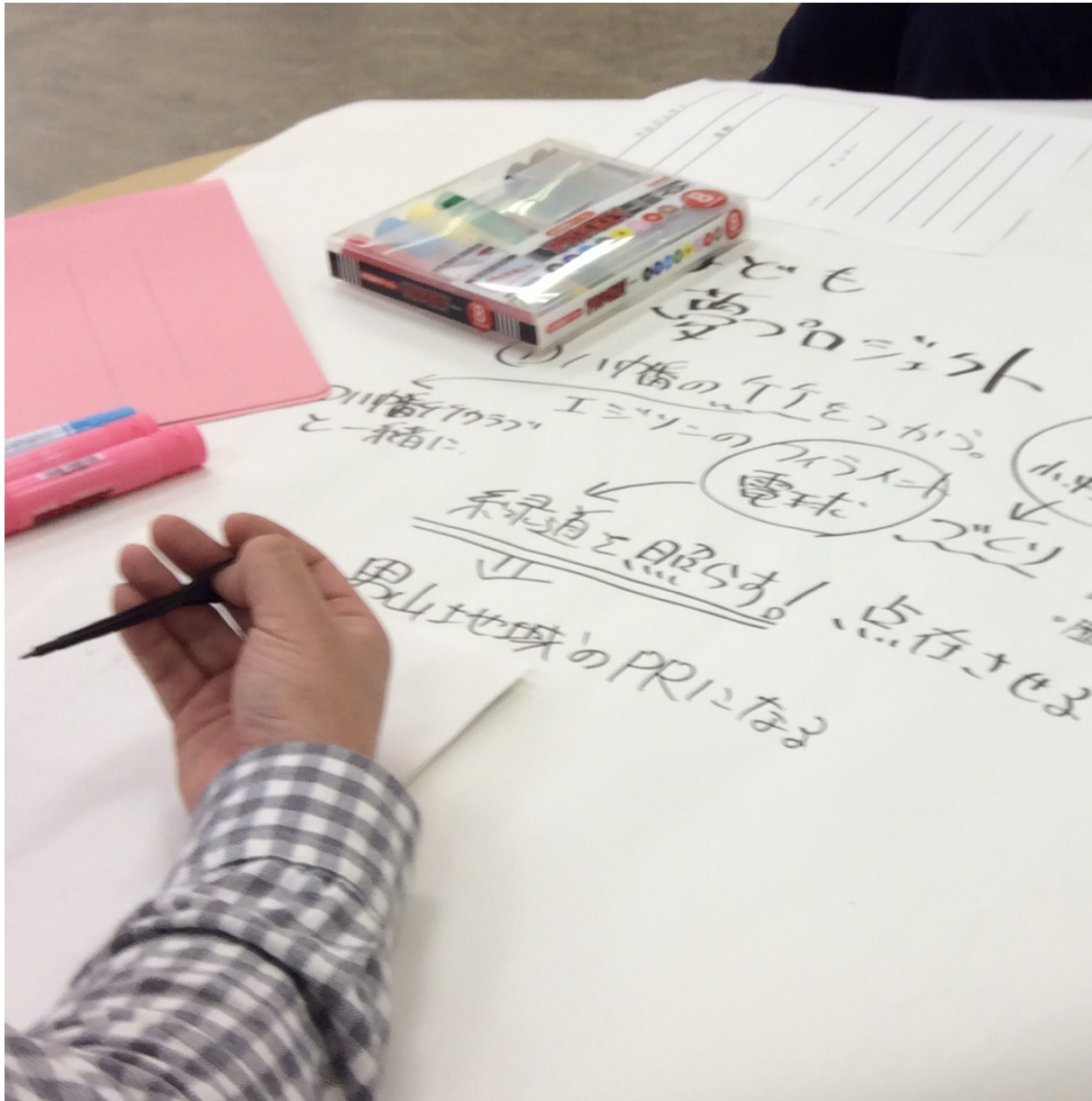
やっぱり価値観がそれぞれのメンバーで違うので、(やってみよう会議の中で)私はぶつかったこともあるんです。その違いを話し合いで深めていくことができずに、ワーと言ってしまったこともありました。だからリーダーはチームをまとめていくのが大変だったと思います。

—— 伊田弘子《夢プロジェクトチーム》



5つのチームが結成

「八幡の地域資源である竹を使った企画を考えています。子ども達が夢をもてるような活動をしていきたい。」
1人1人のやってみようという耳を傾けながら、それぞれの想いが重なる場所に5つのチームが立ちあがりました。
会議が始まった時のワクワクがチームとして束ねられ、具体的な計画となり、いよいよ活動が動きだします。



左：地域資源を活かしたPRについて話し合う
右上：「居場所づくり」について話し合う
右中：「防災を楽しく」と話す森さん
右下：「DIY」をテーマに活動したいと話す井上さん



まず最初のやってみよう

8月初旬、夢プロジェクトチームがまず最初のやってみようを実現させました。

夏休みの真っただ中に開催した「フィラメント作りに挑戦」には、地域子どもたちが会場から溢れんばかりに集まりました。

あとに続くように、防災チームの「出張防災講座」、DIYチームの「コリントゲームづくり」と1歩1歩と前進していきます。



＼ フィラメント作りに挑戦 ＼

発明家のエジソンは、少しでも長く灯りを灯す電球を夢みて、世界中の竹でフィラメントをつくる実験を繰り返し、ついに八幡の竹で実用化に成功しました。夢プロジェクトチームは、そんな歴史を題材にして、子ども達と一緒にフィラメントづくりに挑戦しました。総勢 50 名を超える人数の子ども達が集まり、会場は大いに盛り上がりを見せていました。

主 催：夢プロジェクトチーム

協 力：京都八幡高校科学部、男山児童センター
NPO 法人八幡たけくらぶ

日 程：2015 年 8 月 5 日（木）

時 間：14:00 ～

場 所：だんだんテラス

参加費：無料

参加者：50 名



限られた予算ではあるけど、人を楽しませようというアイデアで、何でもできるんだと思った。フィラメントの実験は、活動資金がなかったからアイデアが出たんじゃないかな。だからこそ、八幡高校の科学部にお願いに行ったり、お金がないからできることがあった。
—— 井高宏隆《夢プロジェクトチーム》



やってみてわかってきたこと

「思い通りにならないことばかりで、やってみよう会議はやってみないとわからんことばかりです。」

当初考えていたことが少しずつ変化してきたという声がメンバーから聞こえてきました。

「まずやってみる」というアプローチを試みた結果、それぞれのチームにはいくつもの「気づき」がうまれてきました。



＼ まちかど清掃 ／

男山やってみよう会議を開催するにあたり、
取組みへの参加を地元高校に相談しました。
「生徒たちには地域の中で学んで欲しい」と
校長先生からいくつかの提案を頂きました。
これまで高校生だけで取組んでいた清掃活動
をきっかけとして、地域との交流を図ろうと
一緒にやってみることにになりました。

主 催：京都八幡高校、だんだんテラスの会、
男山やってみよう会議メンバー、
男山B地区見守り隊、男山第二中学校、
男山第二中学校校区学校支援地域本部、
地域包括ケア複合施設 YMBT 他

日 程：6月・10月（年2回）

時 間：15:45～

場 所：UR 男山団地B地区周辺

参加者：40名



これまでの会議ではなかなか解決しなかった話が、（ポスターづくりの）作業をしながら話すことで意外と内容が深まりました。「ながら作業」というのは一見効率が悪そうですが、みんなで楽しくワイワイ、ガヤガヤすることが状況を変えるきっかけとしてはいいのかも知れません。

—— 福間航〈DIYチーム〉



男山やってみよう祭り

「報告会を普通にやるのはやってみよう会議らしくない」そんな思いから、1年間の活動報告会を「男山やってみよう祭り」と題して、開催することとなりました。祭りのテーマは「体験型」。各チームが企画を持ち寄って、手作りのお祭りを目指しました。当日は、述べ250名を超える参加者が集まり、UR 男山団地の中央センター地区が大いに盛り上がりました。



左：DIYチーム「流れ橋の廃材でつくるベンチ」
右上：祭りの日もいつも通りラジオ体操
右中：夢プロジェクトチーム「お茶の入れ方講座」
右下：継承・拡充チーム「エコクラフトづくり」



左：まち歩きチーム「幻の展望室」
右上：子ども達が考案した「八幡飯」の調理
右中：まち歩きチーム「活動報告」
右下：最後は全員で集合写真

A つくろう!エコクラフト!

牛乳パックを使ったエコクラフトを作ろう! [無料]

B 防災ってなあに?

防災クイズや毛布でつくれる担架のつくり方を学びます!

C 流れ橋の丸太でイスづくり!

丸太で「みんなのイス」をつくり色を塗ります! [無料]

D 復活!おとこやま展望室

団地高層棟にある“幻の展望室”が限定復活 [先着100名]

E おいしいお茶の入れ方講座

日本茶インストラクター 松田一男氏による講座 [定員20名]

F 子ども会議 × やってみよう会議

子ども達が考案した「八幡飯」や「竹つぎりレー」が実現!

12:00 はじまり

A エコクラフト B 防災 C イスづくり E お茶の入れ方講座
F 八幡飯・お茶・焼き鳥のふるまい

13:30 活動報告会

○市長あいさつ(八幡市長)
○全体の取組み(まちの公共員)
○チームからの活動報告(各チーム)
○おわりに(京都府府民力推進課)

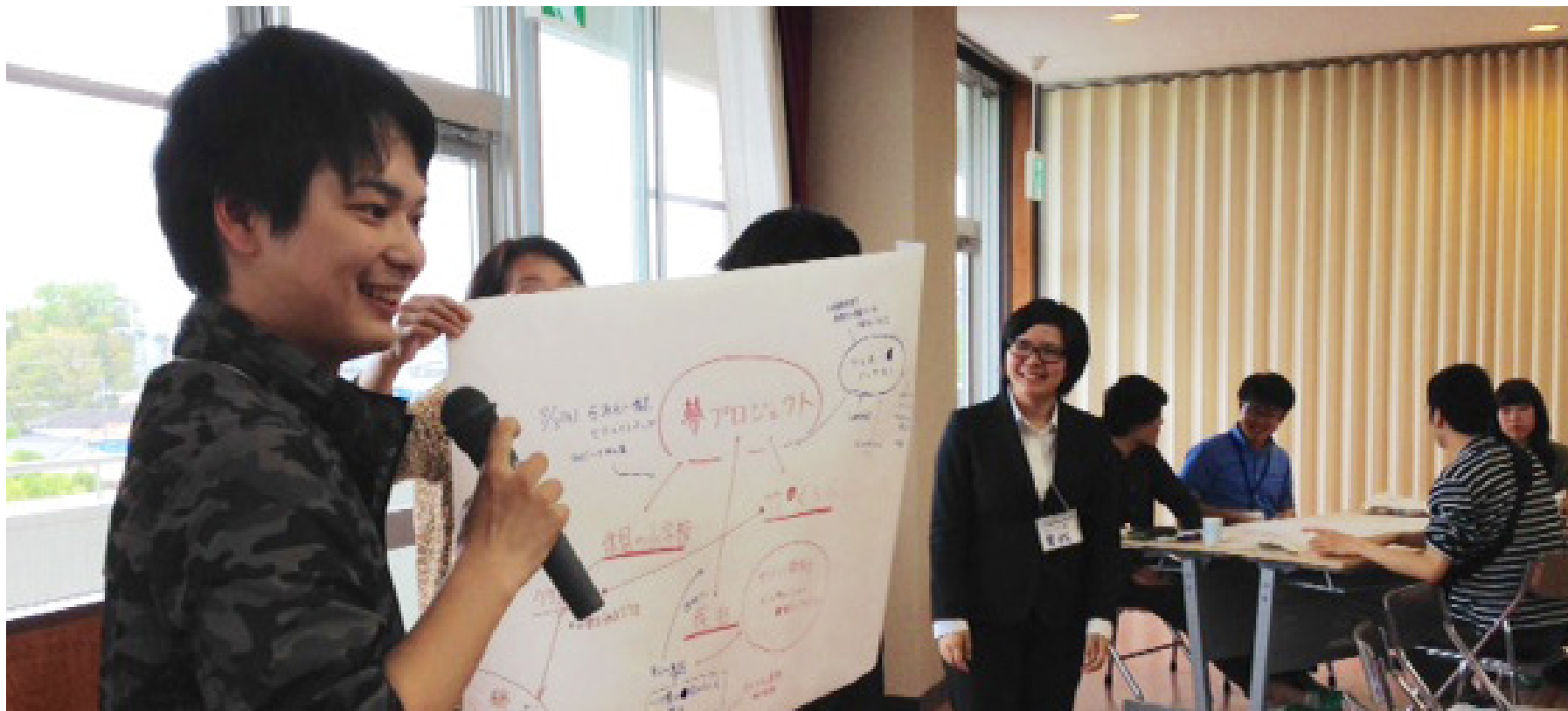
14:30 D 展望台(報告会の参加者に整理券を配布します)

A エコクラフト B 防災 C イスづくり E お茶の入れ方講座

16:00 おわり



まちから活動が見えるように男山中央センター商店街の屋外空間や空き店舗を活用して開催。



2年目のやってみよう会議

「男山やってみよう祭り」を大成功に終えてホッとしたのも束の間、すぐに2年目となる会議がスタートしました。2年目から参加する新規のメンバーも大幅に増え、昨年度とは見違える様にチームづくりもスムーズに進みました。メンバーの期待感がどんどん膨らんでいきます。



チームが抱えている課題に対して、他チームのメンバーからアイデアを集めて解決策を考えます。予め設定した制限時間5分間で、できるだけ多くのアイデアを付箋に書き出していきます。5分という僅かな時間でも、メンバーの知恵や経験を活かすことができます。



会議に参加してみて、目の前のことから逃げるよりも、自分から追いかけることが大切だと気付きました。(やってみることで) 身に付くチカラもあるし、追いかけた方が得だと思いました。「実現すること」を難しく捉えがちなんですけど、最初から諦めてはいけないなと思いました。
—— 實平英輝《8-gram》

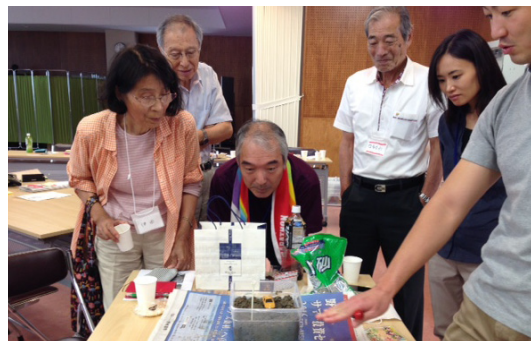


今年もそれぞれのチームが動き出す

「地域の情報や会議の情報を SNS で発信したい」地元の大学生達がこの会議に参加し、「情報発信のチーム」を立ち上げました。

生まれ育った地元を良くしたいという想いを持って参加してくれました。

男山地域のこれからを担う「若いチカラ」は、やってみよう会議に「大きな可能性」与えてくれました。



左：手作り市チーム「だんだん手作り市」
 右上：防災チーム「液状化実験」
 右中：大人も子どもも集まる「こども食堂」
 右下：8-gram「Instagramで情報を発信」



地域の秋祭りでのコラボレーション

今回で3回目となる地元商店会主催の秋祭り。今年のテーマはハロウィンです。
やってみよう会議のメンバーは、たくさんの方が集まる地域のお祭りも情報発信の機会として捉え、
これまでの活動を地域の方にもっと知ってもらおうと、様々な楽しい企画を考えました。



左：夢プロジェクトチーム「スタードーム」
右上：フォークソング愛好会「ステージ」
右中：緑道 de 遊び隊「緑道 de キャンドルナイト」
右下：秋祭り当日の賑わい



— やってみよう会議のイメージは？

竹谷 色々な世代や色々な場所に住んでいる人が集まって、何かやってみようという場所、新しいつながりができる場所かなと思いました。

家村 フレッシュで、パワフルで、何か自分に得るものがあるって、ここで教えてもらったことを何かの役に立てられるかなと思っています。

中居 皆さん色々なやりたいことがありますね。例えば、お芝居をやりたい人がいるというのは思いもよらなかったです。そして、人が集まれ

ばできるんだなと思いました。私は、最近団地に引っ越してきたので、今後は団地での日常生活の課題にも取組んでみたいと思っています。あと、やってみよう会議は団地と違って若い人が多い。(笑)

竹谷 若い人も含めて、月に1回集まれる場があるのはいいですね。

— なぜやってみようと思った？

竹谷 この場に参加して男山のことを教えて欲しいなと思ったのがきっかけです。

家村 私の住んでいるのは八幡ですが、男山地域ではなく、180軒くらいの小さな村なんです。昔からのつながりはあるんだけど、段々と疎遠になってきています。こういう場に来て、私の住む地域でもつながりをつくっていけないかと思い参加したんです。

中居 私の出身は四国の田舎ですが、ここ10年20年くらいの間に、段々と家族のつながりがなくなってきた気がします。隣近所の関係も「義務感」が強くなってきたような気がします。



昨年、京都市内から男山団地に引っ越して来ました。何かをしながら男山のことを知りたいたいと思い、だんだん通信で「新住民のつぶやき」というコラムを書いています。住民同士が楽しんで活動して、つながりをつくっていききたい。そして、団地での生活を豊かにしたい。

竹谷 僕は《まち歩きチーム》にいますが、本当に男山のことは何にも知らなかったんです。円福寺にはじめて行った時、とても地元の人たちと密着しているお寺だなと感じました。

中居 竹林の中にあるお寺ですか？

家村 (中居さんは)行かれたことありますか？男山だけではなく、八幡にも良い所がいっぱいあるので、是非行ってみてください。私は「男山とつながりたいなあ、どういう風にしたらいかなあ」と勝手に考えています。

— チームでやってみてどうだった？

曾我 おじいちゃんや建築の学生から、普段聞けない話を聞けるのはこの場ならではのチームは、伊田さんと倉本くんが引っ張って

れて、その他の人たちは、周りから茶々を入れる感じで活動しやすかった。

松田 大学生ばかりのチームにいたので、気を使わずにできました。若者に向けた情報発信としてSNSを使った活動ができたのが良かった。

曾我 (SNSでの情報発信は) 発想がとても良かったと思います。

平田 私は「みんなについて行く」としか言えないんですけど、ただ家の中に閉じこもっているよりもいいかなあと思っています。



Bチームセッション 左：山本 中央：橋本 右：品川

— 何をやってみたの？

橋本 《緑道 de 遊び隊》では、「緑道を活用して豊かに暮らしたい」というのが活動の趣旨なんです。だけど住んでいる人たちは、(緑道に対して)あまりそういう感覚はないですよ？

山本 あんまりないですね。

橋本 そういう声も僕たちは実感しないといけないと思っています。山本さんはなぜやってみよう会議に参加しようと思ったの？

山本 面白そうだから行ってみよう。 (やってみよう会議が)どなたのところなのかと思って。

橋本 僕は(関西大学の)先輩から強制的に「参加しろ」と言われて参加しました。(笑)でも、活動している内に「男山がこんな風になったらいいな」というのが芽生えてきた。きっかけが重要ですよ。そういう意味では《8-gram》の活動は重要だと思うんですよ。

品川 山本さんのような若い地元の大学生の参

加は貴重ですよ。

橋本 僕が所属する研究室では、大阪・河内長野市のまちづくりにも関わっています。そこは、スーパーマーケットの中に拠点があって、お母さんたちの溜まり場的になっているんですよ。だんだんテラスの場合は、お年寄りと子どもは来るけど、その世代はあまり来ません。

山本 「だんだん通信」って地域の人はみんな見ているんですかね？

橋本 結構楽しみにしてくれている人もいます。表紙の写真とか。山本さんのお家にも届いていますよね？見えていますか？

山本 自分は(やってみよう会議に)参加しているから気になって見ているんですけど、参加していなかったら見ていないかも。

— やってみて、気づいたことは？

品川 最初(この会議の趣旨を)聞いた時は、「やりたい人」がこんなにいるとは思わなかった。なので、こんなにやりたい人がいるんだというのが気づきでした。《8-gram》の活動を見て「大学生はこんなことを考えるんだ」というのも自分にとっては思いもよらなくて—。

SNSでの発信や秋祭りの仮装なんか本当に気づきというか、その発想に驚きました。

橋本 村芝居って言葉も知らなかったですよ？なんとなくニュアンスではわかるけど。全く違う世代で活動するのも面白いですよ。

山本 正直、やってみよう会議ってよくわからないものなんですけど、周りの友達は意外と協力してくれるんだなと思いました。(笑)

橋本 (山本さんは)僕たちとは違う人脈がありますよね。同級生とか幼なじみとか。

— 次にやってみよう

橋本 今年の活動は「地域の見えない価値を見えるようにする」というのがテーマでしたが、「見えた先に」緑道が日常の一部として「使ってもらえる場所」になって欲しいなと思っています。「楽しい」という感覚が共有できたらいいなと思っています。「そんなことしなくても生きていけます」というようなことではなくて。品川 「防災」も堅苦しいイメージではなくて、「楽しくやりたいね」と話しています。今の活動をこのままずっと継続してやっていきたい。その中で活動に参加してくれる人が、もっと増えてくれば嬉しいと思っています。



団地の緑道で拾った落ち葉を使い染色をする実験 (2017. 1. 21)

— 遠くのことは目標にならない

伊田 普段、私は若い人と接することがないから、メディアでとらえていた若者のイメージと違っていました。

私たちが学生の頃とは違って、今の学生はやれる力があると思う。

倉本（関西大学の先輩）河股さんに誘われたのがきっかけで参加したんです。色んなチームがあって迷ったんですけど、（夢プロジェクトの）「夢」という言葉が良かった。

伊田 竹風鈴をつくるイベントで、「お母さんもつくりたい」と親は言うんだけど、子どもは「自分でつくりたい」と夢中になっていました。

倉本 「なかなか上手くつくれない子」もできるまで続けていたりしましたね。

伊田 秋祭りのハロウィンメイクはすごく良かった。子どもたちはみんな喜んでいたよ。

倉本 僕も（メイクをしている）子ども達に話しかけるきっかけになって良かったです。

伊田 小学生の子ども達は中学生のお兄さんが目標。中学生は高校生、高校生は大学生なのよ。やっぱり遠くの人を目標にならないの。だから、君たち大学生が頑張ってくれて本当に有り難いと思っています。

倉本 伊田さんは「気持ちが若い」のでチームの中で各世代をつないでくれていました。（笑）

伊田 やってみよう会議を通じて、「若い人



団地のパーゴラで竹風鈴づくりに夢中になる親子（2016. 8. 13）

と「私たち」の違いを感じ、「精神的な老化」について考えるようになった。

若い人たちの元気な姿をみると力をもらえるし、歳をとっても成長し続けたいと思う。

倉本 「夢プロジェクト」の意味をもう一度考えてみて思ったのは、子どもだけではなく、大人も「夢中になれる場所」をつくることなのではないかなと思いました。

— 誰でもできる簡単なことを教えたい

大塚 周りからは「ボランティアしてるの？」と聞かれます。20歳でこういうことに参加できて、良い人生経験になりました。

松原 「ハロウィンメイク」は本当に凄かった。僕たちのチームはあそこまで周りの人を巻き込めてないけど。

大塚 僕はもともと、特殊メイクの仕事がしたかったんですが、進路相談の時に「特殊メイクだけでは食べていけないよ」と言われて—。

でもハロウィンの時だけは「お前と友達で良かった」と周りから言ってもらえるんですよ。秋祭りで僕がした特殊メイクは、美容室でももらおうとすごくお金がかかるんですね。

「ハロウィンメイク」って、材料さえ揃えれば、正直誰でもできるんですよ。血のりが付いている場所なんかどこでも好きな所で良いので。

子ども達もハロウィンを楽しむなら、「ちゃんとしてる」方が楽しいじゃないですか。

だからみんなにメイクの仕方を教えたいと思ったんです。

だけど、最近の小学生は元気過ぎて怖い。（笑）秋祭りの「傷メイク」も1人1回と言ったのに4回くらい並ばれて—。でも、（子ども達は）可愛いと言えば、可愛いですね。（笑）

— 文化の発信拠点

毛利 活動しているところをもっと地元の人達に見て欲しい。

塚本 そういう意味では3月の報告会は大事な。例えば、もう少し「自治会」と「やってみよう会議」がつながることも良いのかもしれない。でもそれでは（この場の）意味も違ってくるのかな。

毛利 自治会と一緒にできるのは良いと思うんだけど、それぞれの自治会によって事情が異なることもありますよね。

塚本 自治会もやってみよう会議のチカラを上

手く取込んでいけば、いいとも思うんだけどな。毛利 団地は色んな世代の方がたくさん住んでいるから、そこで関わりをもってできることがたくさんあるんだなということに気付いた。

その次に、私たちは「違う世代」とどうやって楽しむことができるのかなと考えるようになりました。

塚本 「団地は文化の拠点や」と俺がいうのはそこや。住んでいる人がみんな違うからいいんだな。時には喧嘩もするからいいんだよ。

そこから見えてくることがあるんだよな。

早川 やってみよう会議を「継続する」ことがポイントかなと思います。報告として「やってきたこと」をただ見せるのではなくて、「やっていること」をリアルタイムでみて欲しい。

塚本 やっぱり何事もやってみないとわからん。頭で考えていたらあかん。やってみなわからん。

早川 やってみて、考えて、またやってみてー。

塚本 やってみたら考えざるを得ないんやな。できないことは考える。できることをやってもあかん。そこから、新しいアイデアはなんぼでもうまれてくるんや。アホやらなあかん。(笑)

早川 やってみよう会議は、絶対に「自分でやらなければいけない」そこが重要だと思います。

塚本 時には後ろに向かうことも、逃げ出すことも、「やってみる」だよな。逃げるというのは難しいんだけど。

ー 地縁×テーマ=新しいコミュニティ

粟井 私は分譲団地に住んでいるし、私のチームリーダーは、戸建て住宅に住んでいるんです。それだけでも考え方が全然違う。この場では、普段我々が、分譲団地の中だけでディスカッションしているのとは全く違う考えを聞くことができます。やってみよう会議は、私の頭を開放するきっかけになったのかなと思います。自分の頭の中をまずは壊されて、ようやくスタートできたと思います。

奥野 気づいたことはありますか？

粟井 気づかないということに気がついた。ここには「何かあるな？」と思うから来ているんですね。時間を割いてここに来る義務は、誰にもありませんからー。

会社なら社長についていかなければなりませんよね。ここで私を動かしているのは一体なんなのか？ということです。結論は出しません。

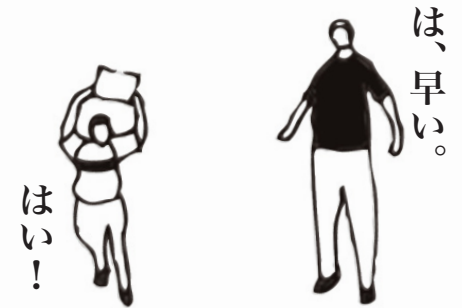
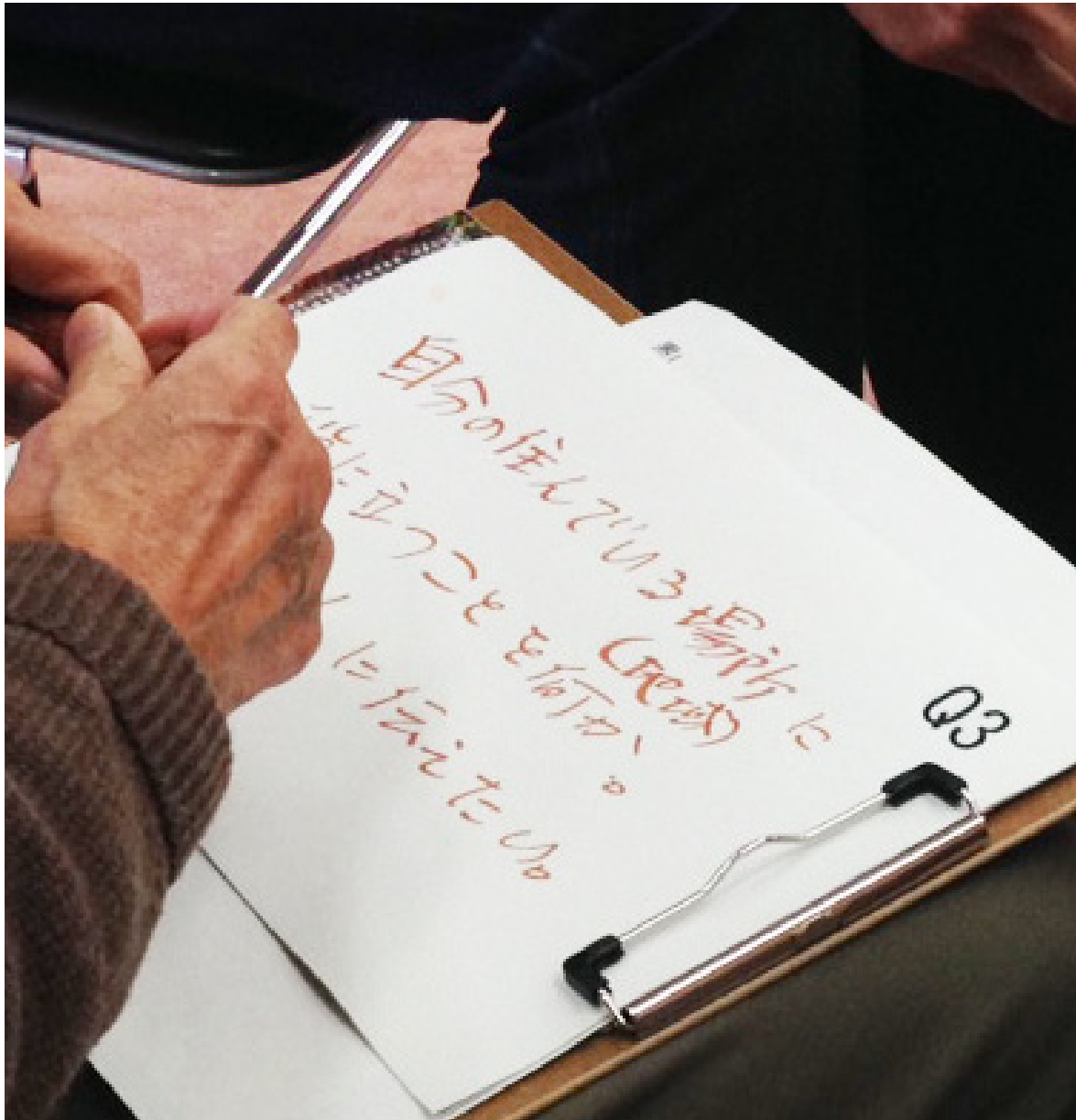
奥野 やってみよう会議は、自治会のような地縁型のコミュニティやサークル活動のようなテーマ型のコミュニティのどちらとも言えないような気がしています。1つ1つはサークルのようではあるけど、「場所」のことを考えているというのが新しいコミュニティだと思っています。

第25回男山やってみよう会議

全体セッション「やってみようをやってみて」(2017.1.21)



A チームセッション 左：粟井 中央：奥野 右：高橋



即答フリップ

参加者は事前に用意された問いに対して、制限時間の中でフリップに答えを書き出す。その後は、それぞれの参加者が書いた答えをもとに、グループで自由に話し合いを行う。

● 7つの問い

- Q1 「今の気分は？」
- Q2 「やってみよう会議のイメージは？」
- Q3 「なぜ、やってみようと思った？」
- Q4 「チームでやってみてどうだった？」
- Q5 「何をやってみたの？」
- Q6 「やってみて、気づいたことは？」
- Q7 「気づきを活かしてやってみたい事は？」

● 当日の参加メンバー：

- | | |
|---------------|------------|
| A 奥野、粟井、高橋 | G 浮田、池田、竹内 |
| B 橋本、品川、山本 | H 田上、伊藤、塚本 |
| C 中村、松田、能戸、笠井 | I 竹谷、中居、家村 |
| D 平井、松原、大塚 | J 倉本、伊田、實平 |
| E 早川、塚本、毛利 | |
| F 井高、曾我、中川、平田 | |

夢プロジェクトチーム

八幡の歴史を題材にイベントを開催しています。地域の魅力を発信し、男山地域のPRや活性化に取り組んでいます。

活動開始：2015年～

主な活動：フィラメント実験（2015.8）

竹灯籠づくり（2015.11）

お茶の入れ方講座（2016.3）

竹風鈴づくり・紙すき体験（2016.8）

スタードームづくり（2016.10）他

メンバー：井高宏隆、毛利吉孝、伊田弘子、河股智矩、
平井剛平、根木恭子、曾我浩子、倉本義巳



NPO 法人八幡たけくらぶには、竹に関する様々な企画でお世話になっている。

DIY チーム

ものづくりを通して世代間の交流を図り、DIYの精神で住みやすい地域を目指します。

活動開始：2015年

主な活動：コリントゲームづくり（2015.8）

流れ橋の廃材でベンチづくり（2016.3）

メンバー：福間航、大西美和子、井上皓介、
長井由佳里



UR 男山団地 A 地区自治会にご協力頂き、集会所前の公園で開催した。

| 防災チーム

日常の暮らしから
防災について楽しく学び、
いざという時に役立てるように。

活動開始：2015年～

主な活動：防災出前講座（2015.8、10、11、12、3）
防災ってなあに？（2015.3）
液状化を体験してみよう（2016.8、10）
おいしい非常食レシピ（2016.10）他

メンバー：森由美、岡田幹夫、堀川寛史、品川智洋、
峯野彩香



地域の防災訓練に出張して、
楽しく「防災」について考える機会をつくる。

| ヤバい！まち歩きチーム

地域を歩いて、地域の人とお話をして、
地域のヤバい（＝魅力）を再発見する
まち歩きを企画しています。

活動開始：2015年～

主な活動：境界を歩く（2015.10）
穴場を歩く（2015.11）
幻の展望台（2016.3）
えんま堂を歩く（2016.3）
泥松稻荷を歩く（2016.8）他

メンバー：田上邦廣、竹谷龍馬、阪井勇樹、奥野智士、
牧角雄、平田清美



まち歩きの後には、男山のおいしいお店を探索。
食事会も毎回恒例となっている。

だんだんテラス継承・拡充チーム

だんだんテラスを地域で継承して、
男山地域再生のシンボルになるように
私たちは活動しています。

活動開始：2015年～

主な活動：教育施設へのヒアリング（2015.8～）

だんだんテラスの常駐（2016.4～）

「新住民のつづやき」の連載（2016.6～）

再生団地の視察—UR香里団地（2016.7）

再生団地の視察—UR鶴舞団地（2016.11）

メンバー：塚本正、粟井正、平田守、中居節子、
河島正子



男山地域を飛び出し、関西圏の団地再生事例を見学している。

こども食堂チーム

大人も子どもも参加自由。
みんなでお昼ごはんを食べて、
交流のきっかけをつくります。

活動開始：2016年～

主な活動：こども食堂

毎月1回、子ども0円/大人300円で
食事会を開催しています。

寄付金や食材の提供を募り運営を
しています。（2016.5～）

メンバー：長谷川陽子、奥野智士、辻村修太郎



長期休みの時には、開催回数を増やしている。
「こども食堂」は、社会からの関心も高い。

| 8-gram

SNS を使って八幡の魅力を発信します。
若いメンバーの「得意」を活かして、
男山を盛り上げていきます。

活動開始：2016 年～

主な活動：Instagram 開始 (2016.5～)
ハロウィンイベント (2016.10)

メンバー：實平英輝、山本龍之介、中川直哉、
松田滉大、大塚達樹



「将来も男山に住み続けたい」と話す大学生ら。
メンバーは「自分ごと」としての認識が高い。

| 手作り市チーム

男山の手作りコミュニティを広げたい。
毎月8日男山中央センター商店街で
手作り市を開催しています。

活動開始：2016 年～

主な活動：だんだん手作り市 (2016.6～)

メンバー：浮田尚子、池田みゆき、柴田明代



手作り品の販売だけでなく、
その場でつくれる「教室」も試験的に開催する。

緑道 de 遊び隊

魅力的な緑道で遊びたい！
そんなメンバーで自由気ままに
活動しています。

活動開始：2016年～

主な活動：緑道 de ピクニック (2016.6)

緑道 de ラジオ体操 (2016.7)

緑道 de 涼む (2016.8)

緑道 de キャンドルナイト (2016.10)

緑道 de リースづくり (2016.12) 他

メンバー：橋本祐紀、松原一樹、早川凌平、奥野智士、
中村穂希、毛利優維、原口剛、関谷朋子



「緑道」を舞台とした活動からまちづくりへ。
好奇心旺盛なメンバーが揃っている。

痛快田舎芝居だんだん一座

「へたな芝居」をみんなで楽しむ。
老若男女が集い楽しめる、
田舎芝居を男山で実現したい。

活動開始：2016年～

主な活動：演歌のつどい

「國定忠治 (ショート ver)」(2016.12)

男山やってみよう祭り

「國定忠治」(2017.3)

メンバー：治金一男、生川信雄、高橋信好、高橋洋貴、
浅井知子、片桐理勝、平井剛平



自治会の長として活躍してきたメンバーが
「田舎芝居」をテーマに集まる。

| フォークソング愛好会

押入のギターを引っ張りだして
フォークソングの練習をしませんか？

活動開始：2016年～

主な活動：だんだんフォーク（2016.8～）

毎月第4日曜日にだんだんテラスに集い、
各自の練習や情報交換を行います。

だんだんみんなで歌ってみよう（2016.11～）

毎月第3水曜日にだんだんテラスに集い、
優しいおなじみの歌をギターの生演奏に
合わせてみんなで歌います。

メンバー：伊藤洋



「メンバーを増やすことが課題」と伊藤さん。
歌ってみようは住民からの強い要望により実現。



2015年 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2016年 1月 2月

会議スタート

対話

・男山のええとこ、ほっとけないとこ
 ・やってみよう会議7箇条づくり
 ・会議の心得、他己紹介

- DIY -----
- 夢プロジェクト
- 防災
- まち歩き
- 居場所 -----

5チーム結成

解散

- × 居場所
- だんテラ継承・拡充

サポーター

まち歩き、だんテラ継承・拡充チームには、新たに協力してくれるメンバーが加わりました。

協働

京都八幡高校科学部が実験に協力してくれました。40名の子どもが集まりました。

- 8/21 コリントゲームづくり
- 8/5 フィラメント実験
- 8/22 夏祭り 10/18 防災訓練

11/26~ 地域の教育機関へヒアリング

情報発信

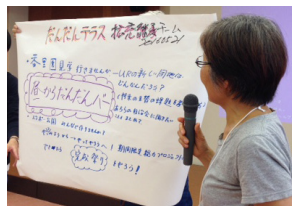
- 11/14 竹灯籠
- 11/14 秋祭り 12/6 防災訓練
- 11/29 境界を歩くまち歩き

1/15 出張報告

活動報告会

コラボレーション

「子ども会議」で小・中・高校生が提案した提言の実現に向け、コラボレーションをしました。





3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2017年 1月 2月 3月

コラボレーション

「男山秋祭り」で男山商店連合会とコラボレーションをしました。

会議
スタート

× DIY 解散

- 夢プロジェクト
- 防災
- まち歩き 4/23 えんま堂
- だんテラ拡充・継承
- こども食堂
- 手づくり市
- 8-gram
- 緑道 de 遊び隊
- 田舎芝居
- フォークソング 毎月第4日曜日だんだんフォーク

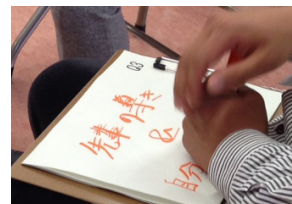
10
チ
ーム
結
成

- 8/13 竹風鈴 8/20 紙すき 10/15 竹ドーム
- 8/4 液状化実験 ----- 10/15 おいしい非常食 3/5 くすのき地区防災訓練
- 8/28 泥松稲荷 10/9 円福寺 10/20 万人講 12/22 円福寺 1/19 石清水八幡宮
- 7/9 UR 香里団地見学 ----- 11/10 UR 鶴舞団地見学
- 5/～毎月第1日曜日 こども食堂 8/～夏休み平日 こども食堂 12/～毎月祝日 こども食堂
- 6/8 ～毎月8日 だんだん手作り市 10/15 秋祭り手作り市
- 5/22 ～Instagram での情報発信 10/15 ハロウィンメイク・コンテスト
- 6/18 ピクニック 7/16 ラジオ体操 8/13 涼む 10/15 キャンドルナイト 12/17 リースづくり 1/21 草木染め
- 12/10 演歌のつどい「國定忠治」
- 毎月第3水曜日 だんだんみんなで歌ってみよう

派生

参加者の声によって活動が展開しました。

活
動
報
告
会



おわりに / 辻村修太郎 「やってみよう」 思い返すとこの言葉は、つくづく「魔法の合言葉」だったと感じています。一方で、私が〈はじめに〉で記した「なんとなくの—」この言葉はどこか「他人ごと」のようであり、極めて都合のいい言葉に聞こえます。これまで「なんとなくの—」と棚上げしていた物事を、「自分ごと」として引き寄せる。「やってみよう」という言葉は、多様な価値観をもつメンバーを一旦1つに束ねてくれる、わかりやすい「かけ声」だったと気づきました。しかし、これも最初から理解していたことでなく、「やってみんとわからん。」ことなのです。この2年間、私のミッションは、「地域課題の解決を図る」だった訳ですが、果たして男山の課題は解決できたのでしょうか？ 現段階では、「多様な世代、立場、価値観をもった人たちが集まり、安心して互いの主張に耳を傾け合う場ができた。」といった所でしょうか。「私を動かしているのは一体なんなのか？ 結論は出しません。」あるメンバーがそう話すように、地域課題とは決して「解決」できるものではなく、「問い」続けるものではないでしょうか？ 「やってみようを続けてみる」その継続こそが「ありたい地域」に近づくための術である。最後に私からの宣言としてここに残しておきたいと思います。

「やってみよう」をつづけてみよう

男山やってみよう会議の活動記録 2015.3 - 2017.3

発行 / 2017年3月1日

編者 / 京都府府民生活部府民力推進課・だんだんテラスの会

編集責任 / 辻村修太郎

制作 / 辻村修太郎

本書は、平成26年11月から京都府八幡市・男山地域に配置する

「まちの公共員」と「男山やってみよう会議メンバー」による2年間の活動を記録した報告書である。